

一 第一線又ハ素質不良、部隊ニ軍司令部ヨリ暗號ヲ補充ス司令部ハ約九十名ヲ有シ餘裕アリ

五 第一線部隊通信ニ就テ

一 幹部ノ能力ハ遺憾ナク低ク通信戦力ノ發揮ハ十分ト認難シ

二 砲兵通信ハ勇敢ニ保線ニ勉メラルニ觀砲間、連絡ハ不十分ニシテ機

ニ投ズル砲兵、射撃ニ困難ナルニナリ

其ノ原因ヲ通信的ニ觀察スルニ概不夫、如シ

一 觀砲間、間隔遠キニ失ス

二 保線兵ノ僅少

三 觀測所、位置臨時ノモヨク連絡困難

四 有無線通信所、施設不十分ニシテ通信所、勤務困難

五 部隊長及將校、通信機關、掌握不十分

一 伊江島國頭支隊等十九瓶、生也區司令部屢良間諸島、無線三分隊整備シナリシニ過早ニ連絡ヲ斷絶セリ

二 暗號書ヲ過早ニ燒却シ易シ作戰開始直前軍ニ於テ徹底ヲ期セシニ尚成果不十分ナリ

六 回光通信及傳令ノ活用

司令部各部隊洞窟間ニ回光通信ヲ實施スルヲ有利トス

又敵ノ砲爆撃ハ有無線通信ノ疏通ヲ阻害スルヲ多クニ鑑ミ各部

隊ハ尚一層傳令ニ依ル連絡ヲ活用スルヲ要ス

軍司令部、兵團司令部僅カ十分行程ナルニ抱テ總テ、報告ヲ電

報ニ依リ實施セシニ急朝夜信セシ重要電報ヲ夕刻入テシテ

フトニアリタリ、故ニ連絡路ニ沿ヒ哨臺ヲ構築シ之ニ依リ傳令ヲ活

用スルヲ緊要ナリ

其ノ九 第一線戦力補充要領

一 歩兵戦力消耗スルヤ後方部隊、航空地上勤務部隊ノ解体兵力取
リ之ヲ補充ス

二 砲兵、高射砲、重火器部隊等ニシテ兵器消耗スルヤ逐次之ヲ歩兵化ス

三 此等及テ第一線戦力化ノ為ニ傳統アル歩兵、大、中隊ニ混入スルヲ要

シ獨ニ編成ヲトルハ不可ナリ

四 兵器ニ乏者ハ簡單ナル任務ノ挺進斬込ニ使用ス

五 海軍戦力化ノ為ニ歩兵兵器ヲ渡スノ外陸軍參謀ヲ配屬シ外中
核特校ヲ附ス

六 手兵ヲ失ヒシ有能ナル第一線部隊長ヲ活用シ雜軍教育ト再編

ニ勉ム

其ノ十 後方、衛生

一 兵器資材ノ愛護回収ニ就テ

ハ戦場ノ真相

ハ人員ノ損耗ト共ニ携帶兵器ノ破損モ多キモ未ダ使用ニ得ル

モノシテ戰場ニ遺棄セラルモノ多シ

只對戰車爆藥ハ當初戰場ニ踏ハ步兵多量ニ携行スモ機動ニ
伴ヒ携帶重量ニ堪ヘ京ヲ使用ニ先ニテ之ヲ捨テモ少シトセス
云我ト防禦ニテ敵ニ逐次地歩ヲ與ヘアト雖モ左記事項ノ勵行ニ依
リ兵器資材ノ散逸ヲ防ギ之ガ回收ヲ圖ルヲ要ス
ハ携帶重量ノ限度ヲ考ヘ戰鬥上ノ要求ニ調和スル彈藥爆藥
資材ノ數量決定

ハ幹部ノ監視ヲ嚴ニシ兵器材ノ散逸遺棄ヲ防止ス
ハ第一線小部隊毎ニ重要兵器器材ノ蒐集班ヲ設ケ之ヲ回
收ニ直接當核戰場ノ戰カトスカ或ハ後方ニ送リテ縱深戰カト
ナス

ニ兵器資材ノ散逸ヲ防ギ之ガ回收ヲ圖ルヲ要ス

ニ兵器ノ損耗狀況

同窟陣地ニ據リ約五十日間ノ戰鬥後兵器ハ次ノ如ク損耗セリ

兵器	數	作戰前對スル比率	彈	藥
A BA SA	九六	六〇%	中口經ニ基數	
迫 射 砲	一〇〇		A B 六 一 七 基數	
MG	一四六			
Eg	四三八	三〇%		
擲 彈 筒	四六八			

ニ衛生

ハ重傷者一名運搬ノ為兵六名ヲ要スルヲ以テ戰鬥員ガ後送運搬任
ズルコトヲ禁止スル如ク豫メ教育ニ置クヲ要ス

ハ戰傷者收容ノ為洞窟ハ頗ル多數ヲ要スハ第一線部隊ノ待機處
ニ收容シオクハ志氣上不可ナリ

ハ陸軍病院野戰病院解散ニ際シ重傷者中自決スルモノアルモ
弱氣ノモノハ自決ヨリ寧ロ敵彈ヲ受ケテ下稿ニテ敵方ニ前進シ
悲惨花狀況ヲ呈ス

四死傷ノ比率

一死ニ對シ傷一ナリ、死ノ高率ナリ艦砲ニ依ルモノ多ク又精銳ナル
莫一線將兵ハ重傷ノ場合自決スルニ依ル
口細部ノ數字ハ不明ナルモ以テ之ノ實際的効果ハ艦砲ヲ莫一

海軍校諸兄ノ奮斗ヲ祈リマス 大イニ頑張りマス 取急キ 貴方等艦砲隊ニ對シ

沖繩本島ニ於ケル歩兵戰鬥ノ冥想及現地部隊ノ対策

敵ノ戰法及之ニ對スル戰法

一判明ニ陣地及予想陣地ニ對シ爆轟艦砲射撃ヲ實施ス

爆轟グラマシク、五ノ六機ニテ連続急降下爆轟(旋回シツク五六回繰返ス)

爆彈ノ大キサ五〇斤乃至一〇〇斤程度精度ハ極メテ良好ナリ

艦砲射撃 距岸ニ千ヨリ五千位ニ近クA、B、C等ヲ以テ實施、水觀測ヲ行ヒ精

度又良好ナリ 多キトキハ一分間ニ〇發程度ニシテ目視困難ナルヲ通常又

二對空射撃ヲ行ヒ且重砲等ノ陣地ニ對シテハ晝間ハ夜間ハ艦砲ニテ終日攻襲

未ルサレド一日中二回位一ニ時間位閉散時アリ 攻襲ハ掩護高ニ二米以上、徑四

徑ノワケ入、洞窟ガツブレル位數日ニ互リ猛烈ナリ 山ハ変形ス

三、破壊射撃終クTK(約)式米石方ヲ歩兵七ノ八名隨伴シ歩兵行進速度ヲ以テ前道

歩兵ノ半數ハ白ヲ有シ他ハ有ズ 有スル者ハ要狙射撃ヲ行ヒ 池、堤、井、

歩TK連絡其他ニ任ス

彈藥ハTKヨリ歩兵ニ與フ(歩兵ハ白衣袴ニテ偽裝匍匐取歩ハセズ、コノ歩兵東ル)

1. 砲ヲ以テ銃眼射撃セシ所ニ対シ猛烈ニ集中射撃シテ銃眼直入ハ少クモ山崩ヨル
銃眼用塞ヨル射撃不能多シ一名モ步兵倒ルヤ後退ス

2. 部落ハ火焰ヲ燒拂ヒ侵入ス包圍シテ撲滅ス肉攻配置ハセラルヲ畏ク
3. 歩兵ヲ殺スカ、TKヲヤツケレバ退退シ得

4. 肉攻ハ掃射サレテモ猶発見セラレバコト必要ニシテ之ガ爲陣前約二三〇米ニ配置
ルヲ要ス

又攻軍ニ方リテハ、
1. 一五〇米ニ配置スルヲ要ス之ハ火焰戰車、射程一三五米前後ナルニヨル、最モヨクハ地障ヲ
利用スル配置ナリ

2. 肉攻班自ラ、手榴彈ヲ有スルヲ要ス、支援射撃ハ出来、戰車附近及後方部隊
ヲ急襲的ニ同時制圧スルヲ要ス(使用)肉攻配置ハ面ナルヲ要ス

3. 一度戰車ヤラルモ、後續戰車同道ヲ通り来ル故攻軍容易ナリ

4. 戰車音響ハ小ニシテ畑中ニ於テハ、八〇米位迄分ラヌコトアリ、道路上ナレバ一軒位迄分ラヌ
5. 歩兵一名デモ殺スキハ後退ス然ルトキハ直ニ砲爆ヲ集中ス人三〇秒后、艦砲、陸砲ハ
約三分后射撃シ来ル爆撃ニ作用ス

8. 右、如キニ付射撃シ発見セラレタル重火器ハ概テ潰サレ、故ニ三〇秒以内ニ移動スルヲ要ス
9. 大射撃ハ横廣縱深約三〇〇米平方以上ノ地域射撃ナルニ付露天ノ移動ニ注意ヲ要ス

10. 右、如クニシテ遂次損耗スルニ付一線ニ過度ニ兵力ヲ集メ、彈藥資材ヲ集積スルヲ持久ニ
適セス且一度ニ多量物資ヲ敵手ニ任スニ付不可、砲爆下トモ夜間ノ追送ハ容易ナリ

(夜間艦砲射撃ハ地域ヲ定メ射撃スルニ付之ヲ避ケレバ可)

重火器ハ縱深ニ並べ一線ヲ保持スルニハ陣地補修ト相俟ツテ後方ノモノヲ推進スルヲ可ク
11. 敵ニハ攻軍準備期間トイフ明瞭ナルモノナキモ大攻勢前ニハ中心地区砲爆猛烈ヲ示ス

12. 小敵、歩兵ハ我間隙ニ侵入シ陣地ヲ構築ス未ダノ人等ノ火網ヲ構成出来ザルトモ、
夜間ハ後退ス、右、透過シヨリ遂次孤立化セラレ四周ヨリ集中射撃セラレ潰サレ

13. 小敵敵トモ透過シ来ルトキハ射撃ヨリ退退スルヲ要ス
一度陣地ノ構築セラレトモ退退困難、退退スルモ保持困難之ガ爲常ニ晝夜ノ間

14. 陣地ニシテ射撃準備ヲシテルヲ要ス(敵モ夜間透過シ来ルコトアリ)
15. 海兵師団、戦法ハ黒人支那ノ第一線ニシテ、又テ督戦的ニ右方ヨリ

砲塔射撃ヲシツ攻軍シ来ル

先づ迫撃砲集中射撃ヨリ我ヲ圧倒シ之ニ層接シテ近迫シ来ル我ハ陣地ニシテ
塹臺ニヨレバ損害極メテ少シ之ヲ射撃ヤムヤ直チニ頭ヲホシシテ発必甲射撃スルヲ要ス
(敵ハ五六十米迄近接シテリ)頭ヲ出スルヲケルト紛戦ニテリ返ツテ不可ナリ
歩兵ノ火焰射シテ之ヲ発射スルヲ見狙撃スルヲ最モ利トス 掩護兵ヲ射ツテ可ナリ
火焰ニ対シテハ洞窟又ハ口ニモ布ヲホニ漏シニ枚ヲケバ充分ナリ
敵歩兵我ヲ集中射ヲ受クルヤ装具ヲ脱シ頭ヲカカヘテ逃ク
洞窟破壊ノタメ信管ヲトリ或ハ信管作用セザル如クシテ射撃セル疑ヒアリ

教育總監部所知先輩各員以下ノ御武運祈上
步兵學校長以下各員ノ御武運祈上

一 要 旨

步兵戦斗ニ関スル總括的觀察 京僧少佐

沖繩本島ニ於ケル戦斗ハ準備極メテ充分、訓練必ツシモ精強ナラスト雖モ敵上
陸以來一箇月ト一旬、熾烈ナル砲爆撃ノ下逐次圧迫セラレツツアル狀況ニ拘ラス各
級指揮官本ダニ必勝ノ信念ヲ堅持シツツ敵ニ出血ヲ強要シアル所以ノモ、本島
兵何等恐ルノニ足ラス唯絶對優勢ナル空中勢カト陸及海上ヨリスル砲過撃ニ堪フ
ルトキ必ズ敵歩兵ヲ撃滅シ得レニ以テナリ
而シテガ島以來幾多ノ教訓ハ如実ニ本島ニ於テ見ルベク步兵戦斗ニ於テ研究更
ニ段兵ノ餘地ハ殆ド無ク独リ過去ノ戦訓ニ基ク諸訓練ヲシテ大ニ突ヲ結ハシムルノ
要アルニシ

一 對砲爆(迫)撃策

步兵戦斗ニ直接寄與スル友軍機ハ連日一機モ存セズ 前方ヨリノ陸上砲ニ對シテハ之
ニ對抗スル砲兵ハ有リト雖モ逐日潰工殆ド半殺トナリ 我ガ戦込ニ依リ損害ヲ兵ハ
ラレツツ補充ニ限ナキ敵砲道^時上^地矣的ニ集中威力ヲ發揚スルノミテ步兵ニ取リテハ

敵砲迫ハ勝手存分ナリ 而モ本島ヲ圍繞スル艦砲(島嶼砲)ハ十字火ノ威力ヲ思フ
ガマニ發揮シ文字通り四圍上空アリ 圧倒的ノ火ヲ降リ注グ狀況下ニ在リ

ノ後方機動 思フタヨリ出未ルモノナリ 特ニ彈丸ノ落ツル所ヲヨク觀察スルハ砲兵陣
地ノ附近 交通ノ要失(部隊ノ機動モ不能但シ晝間ハ全然駄目(天候惡クハナ
シキハ別)

ニ防禦 坑道 洞窟(本島 築城ニ就テハ認識ヲラレシ通り)ハ絶対有效 今月ニ至ルモ
此ノ中ニ在レモノハ地上ニ屍山血河有リトハ思ハレズ春ノ如シ 指揮正冷靜ニ兵力兵器

資材全ヘテガクニアルノミテ温存ヲラレ 蝸室(下ノ大キク開クハ曳火榴彈ヲ對シ是非
必要)亦大イニ效果アリ

要ハ一ニ爆彈戰艦主砲彈ニ抗シ得レモノヲ設備スルト共ニ蝸室底ノモノヲ準備スルト
各々兩者調和ノ要アリ 交通壕 掩蓋術 工物 障碍物殆ンド効ナキニ至ル

ノ攻撃 敵ヲ脱シ投身ノ行動殆ンド許サレズ從來ノ戰鬥モ攻勢ニ於テ多ク兵力
ヲ消磨シカリ

又第一線ノ戰鬥ニ於テ最モ影響アルハ迫ノ集中射トス 之ニ對シテハ寧ろ口思ヒ切リ

突込メテ有利トストモ教訓アリ

敵ハ我痛痒ヲ感スルト否トニ問ハズ一度此處ヲト思ハバ之ニ對シ實ニ徹底シテ火力ヲ
集中ス之ニ對シテハ之ヲ避ケルカ、洞窟、坑道ニ依ルベキナリ

戰車 未ダ直接体験ナキモ對シテ恐ルニ足ラズ MWデ炎上セルモノニアリ
敵ノ性能低下アラザレカ 從來我々ノ考ヘアリスレバ更ニ對テキリ對砲爆ヲ重視

ベキナリ
ニ對シテハツツカリ射撃セバオ返シガ極メテ大AAノ如キモ一方尠地而モ見ツケラ
ルトキハ堅固ナル陣地モ一日ニテ潰エ

以瓦斯 未ダ本格的ニテキモ坑道口ニ對シテハ屢々利用ス
坑道口ニ依烈スル爆彈ハ(馬鹿ニテラズ其ノ瞬時ニ於テ)即ニ突進シ来ルトト思

ハル
坑道戰鬥 歩兵校研究モノ(小官携行セシモノ)概々同 特ニ其ノ弱點トスル所
本島ニ於テモ其ノ對テ見ル 萎縮シテ機ヲ失スルモノ陣地編成ノ欠陥或ハ陣地

六、步兵戰鬥教練「間違」シ、但シ防禦ヲ重視シテ之カ訓練ニ関シ更ニ研究ヲ深刻ニスルコト攻撃ハモット大ナリ所アリ檢討ノコト絶対優勢ノ砲爆雷下ニ於テ部隊ヲ以テスルモノ殆ド成立セズ徒ラニ兵力消磨アルノミ

之ヲ要スルニ敵歩兵ハ實ニ弱体ナリ近代の訓練セラレタル歩兵ニアラスハ密集ニ優勢ノ偽裝ヲ知ラズ、極メテ喧嘩、第一線交代ハ口使用シ只熾烈ナル砲爆雷ノミニ之カ訓練ヲ段適切ナレモノ即チ勝ヲ得ス

細部ハ森島中尉「收集整理」ノ「同」極メテ多シトシテ於ケル努力ヲ次イテトセラレ度

應用資料ノ研究ヲ促進セラレ度

追連絡 通信有線ハトシテモ、無線ノ間斷ヲ利用シ、無線機ノ利用ヲ促進セラレ度

キハ本報受用ノ為メ、概此ハ人ノ手書ナリ、無線機ノ標定ヲ掩護ヲ補フコトヲ得

佐々木 昭夫

戰訓速報 第一八九號

昭二〇・七・一
大本營陸軍部

航空戦力ノ認識ト平面戰略戰術思想ノ是正

(一) 敵制空權下ノ包圍ニ就テ

近代戰ニ於ケル包圍戰、滅戰、空軍協力ト空中兵站トニ依ル立体包圍ニ依リ成立ス。故ニ制空權敵手ニ在ル場合ニ大規模ナル包圍戰、滅戰ニ企圖スルハ豫期セザル支障ヲ招キ失敗ニ歸シ易ク、斯クノ如キ狀況ニ於テハ實力ニ應ジ、包圍ノ規模ヲ定メ、散漫ナル會戰指導ニ陥ラザルコト緊要ナリ。包圍ノ規模ヲ定ムルニ方リテハ、敵上敵ノ戰法ニ鑑ミ、我が砲兵火力ヲ被包圍部隊ノ核心ニ及ボシ得ル如クスルノ著意ヲ必要トス

戰例

緬甸「シンゼイ」盆地ニ於ケル樺井兵團、二旬ニ亘ル包圍及第三十三師團「トレンガン」包圍作戰ノ不成功或ハインパール會戰ニ於テ英印軍ガ空中補給輸送ニ依存シ四月ニ亘リ頑強ニ抵抗シテ屈セザリシガ如キ、又ハ中緬モールニ降下セシ敵空挺部隊ガ数十日ニ亘リ補給ノ地ニ蟠居セシ等、航空協力ノ如何カ地上戰鬥ニ及

ホス影響大ナルヲ知ルケシパールシ會戰中敵ハニ五〇〇〇ノ兵員ト膨大ナル軍需品ヲ被包圍軍ニ補給セシ外患者ヲ完全ニ後送セリ

(b) 制空權(空中補給力)ヲ有スル敵ノ作戰行動ニ就テ

隨時隨所ニ空中補給ヲ受クル敵作戰軍ハ距離ト地形トノ制限ニ受クル事少キヲ以テ平面的戰略戰術思想ニテ敵ノ企圖行動ヲ判斷スル時ハ重大ナル過失ニ陷ルコトアリ

戰例

イ 敵ハイムパー止被包圍軍四ヶ師ヲ正正面ニヶ師ヲラカシ正正面ニヶ師ノ外空級約一ヶ師在印重慶軍以テ五ヶ師等ノ空中補給ヲ擔任セリ
ロ 林集團後方機動作戰ニ方リ長遠ト一八百軒ヲ一擧ニ兩期ヲ冒ニテ追跡ニ引續キイラマテ河畔ニ於テ我ニ決戰ヲ挑ミ皇軍ヲ以テミニモ作戰行動至難ト判斷セラレタル特殊地形地域、緬印國境及中北緬

一 空域ニヨリ行ノ動セルハ實ニ空中補給ニ依存シ得タルヲ以テナリ

(c) 敵制空權下ニ於テ我が戰力發揮上受クル支障ニ就テ

一 後方特ニ補給上受クル影響

一 鐵道、自動車、牛車、舟艇、晝宵行動、月明、燈火行動ハ妨

害ヲ受クルコト大ナリ

交通機關中損害最モ大ナルハ鐵道、輪轉材料及舟艇ナリ

口銃爆撃ニ依ル軍需品中損害20-30%ニ及ブ

註

國土ニ於ケル徹底セル事前對策宜シキヲ得バ更ニ損害ヲ減少シ得ベシ

ハ 橋梁ハ殆ド寸斷セラル

ニ 給養及精神上ノ影響

後方行動ノ連續ハ疲勞ヲ倍加ス 密林山谷通過ハ事前準備周到ナラザレバ給養上ノ不便大ニ精神上ノ感作ハ對空處置適切ナラザル時益々大ナリ

戰訓速報第九〇號

昭二〇七七
大本營陸軍部

統率指揮ニ関スル戰訓

一、峻嚴ナル統率、適確ナル任務附與、賞罰ノ即時勵行ノ重要性ニ就
テ現戰局ハ統率ノ峻嚴軍紀ノ振肅ヲ要スルコト愈々切實ナリ戰
訓ニ依レバ苛烈ナル戰況長期ニ亘リ軍隊ノ疲弊漸増セル際一
度部隊ニ對シ任務ノ遂行、軍紀ノ恪守ニ関シ寛大ナル態度ヲ採
ランガ其ノ余弊測リ知ルベカラザルモノアリ
又現下軍隊ノ實情ト戰況ノ實相トニ鑑ミ、寧口独斷ノ余地ハ小
ナルモ任務ノ適確ナルヲ可トスルコト多シ

例

林集團後方機動作戦ニ於テ兵器ノ遺棄等少カラサル實情ニ鑑ミ
聯隊長大隊長等姓名ヲ即時處断戒飭シ或ハ感狀賞詞ヲ其ノ
都度附與シタル結果、軍容面目一新セリ

二和ハ戦力發揮ノ根源ナリ

司令部ニ和ノ欠クル所アラバ戦況危急ニ臨ミ必ズ重大ナル蹉跌ヲ踏ム
コト戰場將師幕僚ノ等シク認ムル所ナリ幕僚ハ三軍成敗ノ全責
任ヲ負フ血盟兄弟ニシテ又長官ノ幕僚ニ對スル信賴ト幕僚ノ長
官ニ對スル尊敬思慕ハ和ノ根源ナリ

例

大東亞戰場各地戦訓ハ融合固キ參謀陣ガ苛烈ナル戦況克服ニ大ナル
成績ヲ示シ第一線部隊ノ尊敬ト信賴ヲ受テアリ

三主動性ヲ失ヒタル軍隊ノ戦力ニ就テ

軍隊一度主動性ヲ失ハシガ戦力忽チ低下ス攻棄ハ主動確保ノ最良
戦法ナリ然レドモ防禦ニ於テモ鞏固ナル必勝ノ信念ト攻棄精神トヲ
堅持シテ指揮セバ主動性ヲ確保スルヲ得

例

イノムパール進攻作戦ニ於テ山本支隊及第三十三師團ハパールコト

ンパール正面ニ於テ損耗七〇%以上ニ達セル兵力ヲ以テ攻棄ヲ反覆シ
十倍以上ノ優勢ナル敵ヲ防勢ニ終始セシメタ

口前項ノ如キ勇敢ナル部隊モ後方機動ノ命令ヲ受領スルヤ一部ニ於
テ整齊タル行動ヲ缺キ混乱ヲ生ジタリ

ハ林集團後方機動ハ際ニ於ケル各兵團ハ殆ド機動力ヲ失ヒツツモ優
秀ナル機動力ヲ有スル敵ノ急迫ニ對シ終始果敢ナル反棄ニ依リ離脱
ヲ完ウシタルガ如キハ主動ノ要ト攻棄ノ重要性ヲ立證スルモノナリ

配布先

在内地朝鮮師團以上、關係官衙學校

台湾軍管區、閩東軍、支總軍